

小田 富英

前回の遠野大会でお知らせしましたように、来年の大会は富山県南砺市利賀村です。利賀の山さとは、ご存じの通り、平家落人伝説、鈴木忠志の演劇拠点で国際演劇フェスティバル(最近ではシアターオリンピック)の地として有名です。合併の際には、通常、市のなかに村は付かなくなるところを、「利賀村」を歴史的な固有地名として残した経緯をもつ元気な山村です。

遠野大会の閉会の挨拶で登壇した南砺市商工会利賀村事務所長の斉藤嘉久さんをはじめとする方々が中心となり、利賀村に戻ってから実行委員会が立ち上がり、会場、宿泊施設、アクセス、エクスクーシヨコースなどのハード面の準備が進みました。大会内容のソフト面は、日本地名研究所創立当初からの会員で何冊もの富山の地名研究の本を出されている中葉博文さん、利賀村の郷土史家浦辻一成さんと相談の結果、充実したプランが出来上がりました。

六月一三日の大会は、二時から五時までの短い時間ですが、以下のような陣容です。(会場 利賀大山坊 レセプション グルメ館)  
(敬称略。タイトルは仮称です。)

記念講演 「富山の方言と地名」

中井精一 (富山大学 国語学)

シンポジウム 「利賀・五箇山の魅力を語る」

コーディネーター 中葉博文

パネリスト 森 俊 (富山民俗の会会長)

浦辻一成 (瞑想の郷館長)

野原大輔 (砺波市学芸員)

コメンテーター 野本寛一

野本寛一先生には、奈良からお越し願いますが、谷川健一先生と利賀村のことだからとご快諾をいただきました。有難いことです。歴史に残る話題豊富な大会になると今からワクワクしています。

二日目のエクスカーションは、利賀村内の演劇施設「芸術公園」、巨大曼荼羅の「瞑想の郷」などを午前中に回り、午後からは世界遺産合掌造り相倉集落と木彫の町井波の瑞泉寺の二コースに分かれます。解散は、三時ごろ富山駅を予定しています。

大会前に刊行する『地名と風土』第一四号の特集も「越中 越の中の国の地名と風土」として、万葉集、立山信仰、城下町、富山の菓売り、富山の難読地名など面白い内容になる予定です。

こちらにも合わせてご期待ください。

利賀村へのアクセスは、富山駅から貸切バスで入ります(申込み制)。路線バスは、高山線八尾駅からの便があります。もちろん、マイカーやレンタカーでも可です。宿泊施設は、天竺温泉、民宿、スターフオレスト(廃校後学生セミナー用改装)の三種(費用の上でも)を予定しています。申込みの段階で、エクスクーシヨコースと合わせて希望をとり(地名研究所事務局)、利賀村実行委員会で割り振る手順です。一月にはパンフレットが出来上がります。申込みはそれ以降となりますが、今から、来年の六月のカレンダーに予定を書き込み、楽しみにお待ちください。

美味しい蕎麦と山菜を肴に、どぶろく「まごたりん」(中の屋、清酒「三笑楽」を飲みながら、地名談義に花を咲かせましょう。

(『日本地名研究所通信』第九五号、二〇一九年二月二〇日刊)